

県連会頭会議にて愛知県知事へ要望

当所が加盟する愛知県商工会議所連合会では10月19日、名古屋市内のホテルで会頭会議を行いました。県下22の商工会議所の会頭が出席し、インフラ整備などを大村秀章県知事に要望しました。当所が要望した事項は下記の通りです。

1. 県営名古屋空港の防災拠点としての早期整備と空港活性化に向けた支援について

県営名古屋空港は、コンピューター機・ビジネス機の中部地区拠点空港として機能を有しており、国内観光やビジネスで大変重要な役割を果たしています。

また、震災等災害時にセントレアが打撃を受けた際の、代替機能も求められております。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、県営名古屋空港並びにF D Aは過去に経験の無い経済ダメージを受けました。今後は国内需要をいかに増やしていくかが大きな課題のなか、国においても「Go To トラベルキャンペーン」などを実施し、観光誘客等に大きな支援が行われます。この点に関して、国内観光の東海地区尾張地域の玄関口としての機能の一端を担うのが県営名古屋空港であると考えます。

以上を踏まえ、愛知県が整備を進めておられます2022年秋開業予定のジブリパークへの来場者を迎え入れる一拠点としての役割も含め、防災拠点としての空港の早期整備、空港利用者の利便性向上、F D A社の一層の定着化と経営基盤の安定、昨今の新型コロナウイルス感染症対策の観点から次の6項目を要望いたします。

- (1) 震災等災害時に沿岸部にあるセントレアが打撃を受けた際の、代替機能向上と中部圏基幹の広域防災拠点としての早期整備
- (2) 需要が見込まれる北海道丘珠便など新たな就航路線の積極的な拡大
- (3) 既存就航先においてニーズが高い就航路線の増便
- (4) 愛知県名古屋飛行場条例附則における着陸料及び業務施設の使用料軽減措置における期限満了(2021年3月31日)後のさらなる継続
- (5) 空港利用者の利便性向上に向けたデジタルサイネージ等による空港案内の充実およびレストランの拡充

- (6) 感染症対策における密接を避けるための待合室の拡充

2. 名古屋高速11号小牧線小牧北口の渋滞緩和策について

国道41号線の片側3車線化工事が段階的に整備される中、東名・名神高速道路の小牧インターチェンジ周辺の大規模な渋滞は解消されたものの、依然として名古屋高速11号小牧線の北向き最終出口である小牧北出口では慢性的渋滞が発生しております。

この渋滞を解消することは、沿線の企業活動に寄与すると想定されますので、名古屋高速道路を更に北へ延伸し、新たな出入口の設置を要望いたします。



3. 県道197号線の「米野小学校南」交差点から「田楽グランド北」交差点間の早期整備について

県道197号線(小牧春日井線)における「米野小学校南」交差点から「田楽グランド北」交差点間は、道路幅も狭く、大型車両も多く通行。慢性的な渋滞が発生し、特に朝夕の通勤・帰宅ラッシュ時の渋滞は深刻。

同区間の渋滞緩和をすることは、北側の国道155号線や南側の県道25号線(春日井一宮線)の渋滞緩和に繋がるため、早期整備を要望いたします。

